きたまちふれあいタイムズ

創刊号

発行所：(財)大阪市北区商業活性化協会
発行者：理事長 北田 純三郎
発行日：2011年1月
大阪市北区天神橋4-8-12 アークビルディング8F
TEL06-6358-6200
FAX06-6358-6203

「まちづくりの原点は和みの心、新しい公益活動は地域主導で！」

(財)大阪市北区商業活性化協会
理事長　北田　純三郎

発刊のごあいさつ

明けましておめでとうございます。当協会の運営に当たり日頃からの皆様のご厚情に厚くお礼申しあげます。

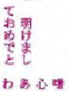
さて、当会は、昭和六十年十二月に北区中小小売商業の健全な発展とまちづくりをとおして北区の均衡あるまちの発展を目指して設立され、爾来、各種事業を実施して参っておるところでありますが、平成二十五年十一月を目処に公益法人改革が実施されるのを機会により効率的な事業運営を目指して近々兄弟団体とも言えます大阪市北区地域開発協議会と組織統合、新たな組織・(財)大阪市北区商業活性化協会として再発足をはかることと相成りました。この間、皆様のご支援を得まして協会設立以来、国町地区の整備をはじめとして、駅前地区の再開発やJR東西線の開通、堂島地域の再開発それに今日の大阪駅北ヤード跡地の大規模開発など北区のまちづくりに関連する様々な事業に様々なかたちで関与して参りました。

このような中、協会ではこの度の統合を機に新しい公益活動の実践と地域住民や北区にお出で頂く方々並びに関係団体・法人の皆様方との連携や共生活動を深めるため、季刊フリーペーパー"きたまち・ふれあいタイムズ"を北区一円を配布対象に発刊する運びとなりました。この機関紙を皆様と当協会を繋ぐ双方向的な情報提供・情報交換の赤い糸として太く発展させ、モノや他人の行動に無頓着になっている今日の社会現象を見直し、一人一人が癒しのきたのまちづくりに向むけての意欲を引き起こす警鐘の一助となれば、また、このことで大都会に住む人々の心和ませる一香にも漂うフリーペーパーになれれば幸いの信念のもと編纂に当たって参る所存であります。

新組織同様、これからの"きたまち・ふれあいタイムズ"にご期待頂き、あわせて叱咤・激励を賜りますようお願い申し上げ発刊の挨拶とさせて頂きます。

創刊祝辞

大阪市北区商店会総連合会
会長　西仲　鍵治



明けましておめでとうございます。"きたまち・ふれあいタイムズ"のこの度の発刊を心からお慶び申し上げます。

さて北区では、本年5月、関西経済浮沈のカギを握るとまでも言われております大阪ステーションシティがいよいよオープンいたします。大丸、三越伊勢丹、ルクア専門店など大阪駅と直結した大型店が誕生する予定でありますが、これらの大型店と商店街や地域が共存・共生していくためには商店街では今一度商いの原点に立ち返り、おもてなしの心を持った接客や洗練された店づくり、それにお客様の嗜好にあった商品の選択等に心掛けることが何より大切であろうと考えております。あわせまして、新しいまちのオープンを機会にこれからは地域と商店街が一体となってまちの回遊性をコンセプトにした地域おこしに取り組んで行く必要があろうと考えております。

この意味でも"きたまち・ふれあいタイムズ"がきたまち相互を繋ぐ役割を果たして頂けるものと確信しております。皆様のご協力を私からも宜しくお願い申し上げ、簡単ではございますが発刊のお祝いとさせていただきます。

活き活ききたまち

商店街での化学反応 『黒崎東商店会アート＆サイエンスカフェ』

わたくしが、この商店街に生まれて、今年で55年になります。幼い頃には、店の前に大阪座・旭座という封切り映画館がありました。最終上映が終わりますと、両映画館より観客があふれ出て、商店街で飲食や買い物をしていただき大変賑やかでした。時は流れ、映画業界が斜陽産業となり、映画館も相次いで廃業しました。跡地が現在の黒崎公園となる頃には、商店街の来街者は激減しました。会長に就任致しました6年前は、自転車で梅田界隈から天満市場へ買い物に行く通路と化し、商店街のアーケードは、雨の日の傘代わり、夏の日は日傘代わりとなっていました。このまま何もしなければ商店街としての機能が失われるとの強い危機感に襲われました。しかし当黒崎東商店会は、「資金もない人手もない、イベント経験も無い、有るのは役員のやる気だけ」の吹けば飛ぶような商店会です。いったい何が出来るのでしょうか。役員一同悩みました。答えは、「暗闇に手探りの状態でも何かをはじめよう」でした。

まず最初の試みが、『てづくりのまち北天満』と称する地域マップとホームページ制作を地域の専門学校とおこなってまいりました。丁度その時、大阪大学大学院の長野八久先生から「商店街でサイエンスカフェを開催しませんか。」との提案を頂きました。大阪大学の教員・学生が協力して当商店会より芸術・文化・化学を発信します。それが訪れる人を増やし、商店会活性化につながればとの思いで、昨年より商学連携事業として『北天満サイエンスカフェ』を開催しまして、この1月で24回目となりました。猫の額程の小さなセミナーハウス兼商店会事務所です。これまで23回の開催を通じて、参加者すなわち商店街へ新たな来街者が、関心を持って参加し学者や学生さんと自由に対話しその後商店街で買い物や飲食をしていただき商店主とも交流していただいています。この試みが、この先当黒崎東商店会の活性化につながるかどうかは判りません。商店会役員に就任した以上は、何もせずにいるよりは、商店街・地域に貢献できる役員でありたいとの思いで、家族に怒られながらも新たな助成金の申請に走り回っております。

黒崎東商店会　会長　青山隆一

故事来歴『鶯塚』

孝徳天皇の難波長柄豊埼の宮（前期難波の宮）が在りし時、女官の一人鶯式部が大化四年（648年）病没し祀ったのでこの名があると。

又、『大阪府誌』（明治三十六年四月）には伝え言う。

昔　塚上に古梅あり六弁の花を開き、元旦には黄鳥必ず来たりて春来を告げしかば此の称を得るに至りしと。

何か古事由来のありそうな『鶯塚』ですが、大正四年この遺蹟の消滅を恐れた付近住民が、鶯塚燈明講を創り小庵を設けてこの塚を保護し、昭和の激動期にも行き交う車の中を大切に引継がれました。

しかし、昭和40年～平成4年にかけての高度成長期に、大阪市の都市再開発整備計画により町の姿が一変し『塚』も天満橋筋と旧道に挟まれ不動の【道標】として保存されました。今も8月24日には、再開発地域より移設した地蔵尊と伴に【鶯塚地蔵尊祭】を、「鶯塚保存会による子供菓子供養」・「大阪北組御詠講の護摩木供養」を法螺貝の音の響きの中で行われています。

北区地域振興連合会
会長　木下 隆裕

編集後記

さあ、新しい兎年の始まりです。

兎年は飛躍とも言われるようにその長い四肢で素早く跳躍することから躍進で飛躍に向けた年になると言われている。

事実、卯年の歴史をたどると大政奉還、日米安保条約締結など新しい幕開けになる出来事が多い年のようだ。

このような中、新しい公益活動を目指して再編した（財）大阪市北区商業活性化協会では地域との連携を深めるため機関紙「フリーペーパー」"きたまち・ふれあいタイムズ"をこの度発刊する運びとなった。

大都会に生活している多くの人々が今日の社会に愛想を尽かしてなのか、モノや他人の行動に無頓着になっている社会現象が近年指摘されている。モノに興味がなくなるという事は生きることに興味を失う事でもあろう。かと言って高原や海辺等での豪華で贅沢なリゾート地に自分の終の棲家に求めるのは出来ではないが老後の体の衰えを思うとこれもちょっと考えもの。年相応の歩幅に合う棲家に自分の安寧の暮らしを求めるのが大切な生き方だろう。人間というのは社会との距離が離れていたのでは生きて行けない動物とか誰かが指摘していたような気がする。その点、年相応の様々な人のそれぞれの歩幅にあった生活が大都市では可能になるのでは？。

当協会では協会の再編を機に各人にあった歩幅の生活が送れるような安全で安心して暮らせるまちづくりを皆様と一緒になって頑張って参りたく考えており、その橋渡しがこの紙の役割と位置付け新しい一幕が開かれるようになることを期待したい。

最後に、この機関紙の創刊に当たりまして、短期間で出稿いただくなど何かとご無理・ご面倒をお掛けしました関係者の方々に謝意を表して編集後記とさせていただきます。

T・H

いま、きたまちでは！

今、話題の電気自動車が北区の街も走っています！

大阪市北区商業活性化協会
理事　朝田由治

平成21年7月、ガソリンを全く使わない、リチウムイオン電池で駆動する電気自動車が三菱自動車(株)から発売されましたが、「大阪で創った電気自動車を大阪の街で走らせ、大阪の街の空気をきれいにする」をめざし、地元企業のユアサM＆B(株)が、5人乗りの電気自動車「ライタ(雷駆)」を光岡自動車(株)と共同製作、平成22年4月から、一般販売されています。「大阪でも満天の星空が見れるように戻れたら」との思いがこもっています。

リチウムイオン電池は、従前の鉛蓄電池に比べて、小型・軽量かつ高性能。一般の営業等で使われる場合、1回の満充電で、1日の走行対応には十分利用可能です(航続距離:160km) 今までのガソリン対応車では1km走るのに10～15円かかってましたが、電気自動車ではその1／10以下、オイル交換等の費用も発生しないので、経費は少なくてすみます。また、モーターで走りますので走り出しから大きなトルクが得られ、スポーツ車なみの感覚です。搭載のリチウムイオン電池は、約10年ほど利用できる充放電が可能で使用期間としての問題もクリアされており、車載使用後のリチウムイオン電池のリユースとして、太陽光等で発電した電気を貯めるのにも利用できるとのことで注目です。

お問い合せ：ユアサM&B(株)　EV販売推進部　TEL06-6226-4173

小長谷のきたまち探訪［ロボットラボラトリー］

大阪市が大阪駅前第3ビルに開設したロボットビジネスを生み出す拠点だ。大阪の中小企業が、成長産業のひとつであるロボット産業の仕事に関係したビジネスの取組みをサポートをすることが目的に作られているんだ。研究会やフォーラム、実証実験の支援なんかもやっている。ロボットに関心のある企業さんなら、ロボットテクノロジーでビジネスを生み出すことを目的に集まった企業の会「RooBo(ローボ)」の運営(会員数<法人会員119社、個人会員334名＝合計453> 9/30 現在)もしているので、会費無料なのでどうぞ。関心あったらホームページ http://www.robo-labo.jp もみてね！

受付：月～金9時から夕方5時30分(休日除く)
電話：06-6347-7877・FAX:06-6347-7875
メール：robo-rabo@sansokan.jp

〒530-0001
大阪市北区梅田1-1-3-1600 大阪駅前第3ビル 16階

地域のとりくみ

交通安全教育技能コンクールに参加！3位入賞

梅田東地区をはじめ、大阪のどの地域も交通量が多く、芝田1丁目町会が所属する梅田東地区には、梅田東防犯の組織があり、高齢者向けや児童向けに日々、地域の防犯活動や交通安全講習に取り組んでいます

昨年12月3日に交通安全について正しくおもしろく講習するための技術の向上を目的として、大阪府警で交通安全教育技能コンクール(寸劇のコンクール)が行われ梅田東地区が参加しました。

交通安全教育技能コンクールは大阪を13署のブロックに分け、上位2署が大阪府全体の大会に進出します。さらに高成績であれば近畿大会、全国大会があります。

一昨年は梅田東の防犯を担う曽根崎署は、3位でした。入賞はしたものの、上位コンクール進出の2位以内に入ることができず、涙を飲んだのでした。

今年こそは昨年のリベンジを果たすべく！と、担当のお巡りさん、地域の推進委員、放置自転車の撤去を担当する大阪市建設局の職員さんも加わり、小道具や大道具なども凝って、連日連夜の特訓に次ぐ特訓を重ねてきました。

本番前日には、曽根崎署署長以下、署内のお巡りさんをたくさん集めて、最終リハーサルまで行なったのでした。

当日は地域の防犯委員の方々も、たくさん応援に来てくれました。我が曽根崎署チームは13チーム中6番目の出演です。本番は制限時間内にキッチリと収め、内容も、練習通りに成功させ、客席で囁かれる評判も上々。ステージを終えたとき、主役を張ったお巡りさんは、感極まって泣いていました。それくらい、力を入れて頑張ってきました。

全体のレベルが上がっていると言われた中、結果は昨年同様3位。昨年とおなじ順位をキープできたということは、曽根崎署チームのスキルもそれだけ上がっているということです。

一所懸命に取り組んで、防犯の意識を高め、伝えていくためのスキルを磨という、目的は十分に達成されたのだと思います。

芝田商店会 会長　三島　保

交通安全教育技能コンクール

芝田商店会
http://www.shibata-shotenkai.com

地域、商店街など、まちの出来事探し、又は冒険など情報をお寄せ下さい。　広告掲載もお受けしております。
詳細は下記へご連絡下さい。おまちしております。

連絡先 e-mail:info@pcdesignoffice.com
TEL:06-6358-5206 FAX：06-6358-5204
(株)ピクデザイン事務所　下村[illegible]

まちづくりセミナー Vol.1

商店街を元気に（1）

大阪市立大学大学院　創造都市研究科
教授　小長谷一之

いま商店街の活性化が課題である。もともと日本の商店街は、単なる商店の集まりでなく、地域文化の担い手であり、憩いや癒しの空間であった。それが衰退するということは、地域文化そのものの衰退に他ならない。戦後、地域を襲った大波は、いわゆる「業態革命」と呼ばれる大型流通業の出現である。車社会の到来や郊外開発という流れによって、立地場所よりも品揃えと大量仕入れが重要となったことから大型店は競争力をもつようになり、地域の商業に進出した。

しかしながら、21世紀に入り、まちの外向的発展は終息、内向きのまちづくりが重要となるにつれ、商店街にとって以下のような３つの新しい「追い風」が吹き始めているのである。

（追い風１）まちの発展の中心部への回帰。
（追い風２）高齢化社会の到来（高齢者は商店街志向が多い）
（追い風３）地域文化を生かしたまちづくりのブーム・・・

ところが商店街は元気がない・・・ということは、こうした追い風を活かしきれていないということである。そこでやり方を工夫する必要がある。

私の研究室では全国の400ほどの地域活性化事例をしらべ「まちづくりの３法則」として定式化している。

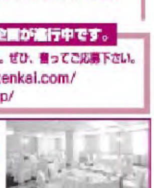
【まちづくり法則①】	地元がしっかりしていること（若い人がアイディアを出せる信頼関係）
【まちづくり法則②】	ライバル・大規模店ができないことをする（差別化法則）
【まちづくり法則③】	顧客の好みにあわせるマーケティングをやっていること（顧客密着化の法則）である。

これをスローガン化すると「敵を知り、己を知り、客を知らば、百戦危うからず」となる。次回は、具体的な商店街の事例で検討してみましょう。

現在、「北区の風景写真展」の企画が進行中です。

近日、詳細を、ホームページにて発表いたします。ぜひ、奮ってご応募下さい。

① http://shibata-shotenkai.com/
② http://www.cckita.jp/

歓送迎会プラン
■期間／2011年3月1日(火)～6月30日(木)
お世話になった方、感謝を込めてお迎えする仲間
そんな方々との心温まるひとときを過ごしていただけるプランをご用意いたしました。
お集まりの皆様にご満足いただけるよう、幹事様をサポートさせていただきます。
■ブッフェプラン　お1人様￥7,000～
■コース料理プラン　お1人様￥10,000～
全てのプランにフリードリンク付
※20名様からご利用いただけます。
※写真はイメージです。
※料金はサービス料・消費税込

大阪 新阪急ホテル
阪急・地下鉄梅田駅すぐ／JR大阪駅前
阪神梅田駅から徒歩10分
http://hotel.newhankyu.co.jp
ご予約・お問合せは（宴会部セールス）
お問合せ(06)6372-6510